

大津支え協は、皆さんがいくつになっても、住み慣れた町で生き活きと生活していくことを目的に、生活支援サービスや通いの場(サロン等)を通じて高齢者の社会参加の促進を目指します。

適度な“おせっかい”… 始めてみませんか？

今の自分や自分の大切な人は、人とのつながりを感じて生活できているでしょうか？ また、将来もそのつながりを感じ続けるためには、どうすればよいでしょうか？

それは、「おせっかいかもしれない」と感じて、一歩踏み出して声をかけたり、行動することから始まります。

この小さな行動(スモールアクション)の積み重ねが、人と人をつなげ、地域の連帯感を生み出し、「誰も一人にさせないまち」へ向けた大きな力に変わるのです

“小さな行動”が大きな力へ



日頃のあいさつ



困りごとのお手伝い

“認知症マフ” って知っていますか？

認知症の人の多くは手元が落ち着かず何かを触っていると気持ちが安心する傾向にあります。

認知症高齢者ケアのために、**認知症マフ**（英語：トウイドウル・マフ）という筒状のニット製品がイギリスで使われています。

カラフルでボタンやリボン、毛糸のポンポンが筒の内外を飾り、手を入れるとふんわり温かく、飾りを触って楽しみホッと落ち着くといえます。

このマフを作成することで、認知症ケアの助けになるうえ、地域での認知症への理解が進むことや、作る人も誰かの役に立つことでリラックスし心が解放され、手先を使う編み物が認知症予防に繋がる事が期待されます。



大津地区でも始まっています。

馬堀台団地の桜寿会の皆さんは、地域住民同士の助け合い活動を行うほか、“いきいきサロン”の活動として、「認知症マフ」を製作しています。

安心感与える「認知症マフ」馬堀台団地老人会が特養施設「シャローム」に寄付

社会

〈タウンニュース 横須賀・三浦版 12/27号〉

馬堀台団地自治会の老人会
有志は12月13日、手作りで編
んだ認知症マフ46個を走水の
特別養護老人ホーム「シャロー
ム」に寄付した。同施設の成
田正幸施設長は「コロナ禍以
降、地域との交流が減る中、こ
うした申し出はありがたい」
と感謝の意を示した。



成田施設長（左）にマフを手渡す老人会メンバー